カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

１１月号

令和６年１１月　１日

校長　小堺 広司

学校教育目標
「やさしく
　　かしこく
　　たくましく」
～世界の架け橋となる子どもたちの育成を願って～

『Juntos みんなで楽しもう！』 ～ リオ日学魂を感じる時 ～

１０月１９日（土）、文化祭を行いました。文化祭の目標は「Juntosみんなで楽しもう！」でしたが、最初から最後まで笑顔で、参加してくださった方々と一緒（Juntos）になって楽しむことができました。

短い準備期間に、合奏・合唱・演劇・特技披露と、難しい挑戦が続く中、時にはくじけそうになることもありました。それでも諦めることなく自分たちの力で磨き上げ、ひとつのものを完成させる姿に「リオ日学魂」を感じました。

これは決して簡単なことではなく、子どもたちが自ら頑張ろうとする強い意志、仲間を信じて支え合おうとする優しさ、教師との強い信頼関係、家族の支えに感謝する気持ちがあってこその大きな宝物です。

「リオ日学魂」。学校生活のいたるところに感じます。リオ日学で過ごすからこそ得られる経験が、子どもたちの大きな成長となるように、これからも全力で支えてまいります。

○ インスタグラム 始めました

リオデジャネイロ日本人学校の良さを少しでも詳しくお伝えするために、インスタグラムを始めました。

「rionichigaku」がアカウント名となります。

これまで、公邸料理人をお招きした調理実習の包丁さばきや、理科実験の様子、校内の自然などを掲載しています。

個人情報の取り扱いには十分注意してまいります。

＜全校朝会校長講話より　１１月１日＞

１０月２７日から１１月９日は「読書週間」で、本を読んで「平和な国を作ろう」と呼びかけています。リオ日学にある２冊の本から「本が教えてくれること」を話します。

『もうじきたべられるぼく』という絵本を読みます。「ぼくはうしだから、もうすぐ食べられるそうだ」に始まり、「せめて、ぼくをたべた人が、自分のいのちを大切にしてくれたら　いいな」と締めくくられます。

食事をする前に「いただきます」と言う意味を考えたことがありますか？食事に関わる全ての方に対する感謝と、肉・魚・野菜など命あるもの全てに対していただく感謝の気持ちです。ケニアのノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんが日本の「もったいない」という言葉に共感して世界に広め、MOTTAINAIが世界で有名になりました。皆さんも毎日の食事に感謝して大切に食べましょう。

『ライオンのおやつ』とう本を紹介します。「がん」という病気を知っていますか？１年間で３６万人以上の方が亡くなり、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、前立腺がんなど体の中で異常な細胞が増え、臓器が機能しなくなり命を失うこともあります。がんは、喫煙、ウイルス、飲酒、偏った食事、運動不足、生活のストレスや遺伝など未だに原因がはっきりせず、治療方法が定まらない難しい病気です。

がんに冒された主人公は四国の島にある「ライオンの家」というホスピスで亡くなるまで短い時間を過ごします。最後に食べたいおやつを１度だけ思い出の通り忠実に作ってくれます。父と幼い頃食べた洋菓子を希望するのですが、結末は本を読んで確かめましょう。「おやつが人生を豊かにする。おやつは心の栄養、人生へのご褒美」と記して、「おやつ」があるからこそ、「命の尊さ」を感じることができると描いています。皆さんが最後に食べたいおやつは何ですか？

私の母は鼻の横にがんができ、放射線と抗がん剤で治療しましたが、首に転移して亡くなりました。入院中、「洋梨のコンポート」を差入れたことがあります。洋梨を白ワインと砂糖で３０分煮込み３０分その煮汁においたら完成です。母は、ほんのひと口だけ食べ、やめてしまいました。先日フェイラで洋ナシを勧められた時、突然このことを思い出しました。治療の策が尽きて退院となり、母に好物のあんみつを勧めました。元気になったら味わうと言い、手を付けませんでした。甘みを感じる舌の味覚が機能せず、砂をかむ思いで、あんみつを食べたくなかったのでしょう。

その後、誤嚥性肺炎を起こし、水も飲めなくなり、「ぶどうジュースが飲みたい」という最後の願いも叶いませんでした。サウジアラビア王国・ジェッダ日本人学校勤務時、長女が生まれました。同じ日に用務員のアフメッドにも女の子が生まれ、「カウサ」と名付けました。２人は２歳３ヶ月までともに過ごし空港で別れを告げ、今年の２月、３０年ぶりの再会を果たします。イスラム教では人が亡くなると天国で「カウサ」という泉に湧く水を飲み永遠の命を授かるそうです。宗教は別にして、もし母がカウサから永遠の命の水を飲んだとしたら、今頃おいしくぶどうジュースを飲み、あんみつを食べているに違いありません。

先日、母が５０年前に書いたレシピが出てきたと姉から連絡がありました。クロメスキというフランス風コロッケです。そんなシャレたものを菜食主義の母がどこで習ってきたのでしょうか。おいしい記憶にまた出会えたら、母の想いに近づけるかもしれません。

「この一行に逢いにきた」。本をたくさん読んで、ごはんをたくさん食べ、水をゴクゴク飲んで、フーッと息をつき、「生きている！」と実感しましょう。

○ 文化祭・名場面！

＜オープニング＞

何気ない日常の会話から、文化祭のオープニングへと導くストーリーと演出に感心しました。

小学部２～４年生子どもたちの演技は微笑ましく、ワクワク感も高まりました！

＜全員合唱・合奏＞

「Wish 夢を信じて」
「Se essa rua fosse minha」
「アフリカンシンフォニー」

熊本先生が大好きな曲を選んでご指導くださいました。ブラジルの子守歌は山本先生のギターの音色がやさしく、しっとりと歌い上げました。リズミカルなアフリカンシンフォニーは勇ましさを感じます。

９人でも厚みのある演奏となったことが素晴らしいです。

＜劇・おおきなかぶ＞

毎朝、声出し・セリフ合わせ・動きの確認を繰返し、みんなで作り上げた劇でした。

演出について、各自がキャストにぴったり動き方や声の調子を工夫しました。教員の助言もありましたが、その前から「こうありたい」とセリフや声のトーンを変えるなど、努力する姿が素晴らしかったです。

エンディングのおばあさんとかぶの掛け合いは、その場で思いついたアドリブから始まり、観客をクスリと笑わせます。

この経験は大きな財産となり、皆さんの未来を明るく照らします。

＜特技披露＞ ステージで特技を披露した後、フロアーでみんなに体験してもらいました。

お手玉

竹馬

けん玉

折り紙

＜連邦大学生による演劇＞

今年も連邦大の学生さんが創作劇を日本語で演じてくれました。

日本語の響きの面白さとシャレを取り入れ、昨年の劇で反響の大きかったセリフを再び入れてみたり、一生懸命な演技に見入ってしまいます。

大道具・小道具・衣装・メイクにこだわり、私たちのためにここまで努力してくれたことが、とてもうれしいです。

＜打ち上げ＞

PTAのみなさんにご協力いただき、文化祭の打ち上げを行いました。チキンとポテトはハイムンダさんと松平先生がコジーニャで揚げてくださいました。

全力を出し切り、ひとつのことを成し遂げた後のジュースや揚げ物は格別です。

いつまでもずっと、この瞬間を覚えていてくれたらいいなと思います。